

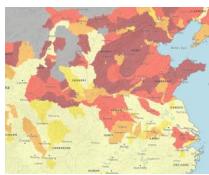
「CDP 水リスクアドバイザリー」のご提案

1. 特性把握

水リスク評価の実施状況により、リスク特性を把握します。

Aqueduct (WRI)

- ✓ 水ストレス地域
- ✓ 洪水リスク
- ✓ 水質リスク



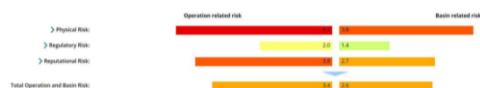
Water Footprint Network

- ✓ 原材料のウォーターフットプリント
- ✓ 持続可能性



Water Risk Filter (WWF)

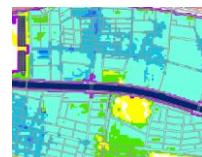
- ✓ 国・河川流域リスク（規制・評判）
- ✓ リスク・機会分析



水リスク評価

ハザードマップ

- ✓ 洪水リスク
- ✓ 土砂災害リスク
- ✓ 高潮・津波リスク



2. 操業評価

地域情報（外部）、拠点情報（内部）に基づく水リスクに対する操業評価を実施します。

データ分析

各事業所の水関連リスク・地域情報・拠点情報を整理します。

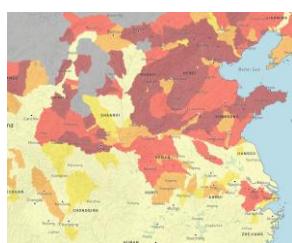
リスクレベルの設定

リスク発生確率と被害規模を基準にリスクレベルを設定します。

操業評価

リスクレベルに基づき各事業所の対策優先度を設定します。

前段水リスク評価に加え、各事業所が停止した場合の影響等も整理



リスクマトリクスを作成し優先度を設定
リスクマトリクス

レベル5	11	16	20	23	25
レベル4	7	13	18	22	24
レベル3	4	9	15	19	21
レベル2	2	6	10	14	17
レベル1	1	3	5	8	12
	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5

優先的に対策が必要な事業所を抽出





3. 対策立案

拠点・施設ごとの水ストレスを予測し、耐水化、減災などの対策を立案します。

渴水リスク対策

- ▶ 節水機器への更新
- ▶ 水リサイクル設備の設置
- ▶ 代替水源の確保
- ▶ 事業継続計画の策定

水質リスク対策

- ▶ 水質監視システムの導入
- ▶ 貯留施設の設置
- ▶ 水質保全活動

洪水リスク対策

- ▶ 施設の耐水化
- ▶ 事業継続計画の策定
- ▶ 排水ポンプの設置

4. 体制構築支援

■ 水リスク対応の検討

- ✓ 情報収集体制の検討支援

水リスクの精査



収集すべき情報の整理



情報収集体制の提案



■ 目標設定・ロードマップ

- ✓ 水リスク対応の評価指標の設定
- ✓ 各指標の目標値、年度目標案の設定

対応の進捗を図る指標を設定



優先度から対応年度・目標を設定



ロードマップの策定

項目	短期 ～2025	中期 ～2030	長期 ～2050
渴水リスク			
目標1：水使用量の削減			
施策1 節水機器の導入	●箇所導入		
施策2 排水リサイクル	●%UP	●%UP	●%UP

5. 情報開示支援

■ 環境報告書の開示支援

公表資料作成のノウハウを活かし、分かりやすい報告書の作成をご支援致します。

- 環境活動レポート
- 環境・社会報告書
- CSR報告書
- サステナビリティ報告書 等々…



■ ESG 外部評価機関への対応支援

お問い合わせ

株式会社 東京設計事務所 CDP窓口

tec-cdp@tokyoengicon.co.jp